

第6学年 音楽科学習指導案

授業者 教諭 眞壁 一輝

1 題材名 「演奏による表現の違いを聴きとり、工夫して表情豊かに歌おう」

教材曲 「交響曲第5番『運命』第1楽章」 ベートーベン 作曲

「語りあおう」 劇団四季文芸部 作詞 鈴木 邦彦 作曲 横沢 源 編曲

2 題材の目標

- ・様々な演奏による音楽表現の違いを感じ取り、その良さを味わって聴く。
- ・歌詞の内容を味わい、曲想を生かした表現を工夫しながら、思いを生かして歌う。

3 題材設定の理由

本題材は学習指導要領第6学年の学年目標(2)及び(3)並びにA表現(1)ーイ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」B鑑賞(1)ーウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」を実現するためのものである。指揮者の違いによる様々な演奏のよさを味わって、表現の多様性を知り、自分たちの演奏に生かすようにすることをねらいとしている。鑑賞曲「交響曲第5番『運命』第1楽章」は、オーケストラの楽器の響きを味わいながら、指揮者によって音楽表現に違いがある事を聴き取ることができる。緊張した音楽と優しい音楽が交互に表れ、その構成のよさや、緊張を高めていくクレッシェンドの効果、フェルマータの効果が特徴的な楽曲である。特に、最初の二つのフェルマータでは音楽の動きが一時的に停止するため、様々な試みが成立する。したがって、演奏比較をすることで、それぞれの表現の違いを聴き比べることができる。歌唱教材曲「語りあおう」は、歌詞の内容を味わって強弱や歌い方を工夫し、思いを生かし、表情豊かに歌えるようになることをねらいとしている。この曲は、A・B・Aの3部形式で構成されている。Aは弱起のフレーズや跳躍する音程などを、Bでは、同音の反復や長いフレーズの穏やかな感じを、歌詞と結びつけて考えることができ、強弱や歌い方を工夫しながら、思いを生かし表現豊かに歌うことができる教材である。

本学級は、音楽に対しての興味関心が高く、積極的に歌唱や器楽演奏に取り組むことができる児童が多い。朝の会では児童が交代で指揮者を務め、拍感やテンポ感を感じながら歌っている。指揮者の中には、強弱を付けたり、表情を意識しながら指揮に取り組める児童もいる。音楽の授業では、和音感覚を育てるために常時活動として、リコーダーでI、IV、Vの和音を奏でている。また、歌唱時の体の使い方に慣れるため、口の形カードを使ったり、複式呼吸をして歌ったりする活動を行っている。1学期には、児童がグループを作って話し合いをしながら表現を工夫する活動を大切にしてきた。教材曲「笑顔でワ・ハ・ハ」では、自分たちの曲のイメージを表現につなげるために、付箋を使って班で話し合いながら、歌い方を工夫することができた。「弾む感じを表現するためにお腹をしっかり使う。」「言葉が伝わるようにはっきりと歌う。」といった意見を出すことができた。「ハンガリー舞曲 第5番」の学習では、指揮をしながら聴くことで、速度や強弱の変化の面白さに気付くことができた。

指導にあたっては、「交響曲第5番『運命』第1楽章」を初めて耳にする児童もいるので、CDを通して聴くことで、曲の全体像をつかませたい。つづいて、作曲者の生涯やオーケストラの楽器編成などについて知らせる。その後感じたことを発表することで、それぞれのイメージ

を交流させたい。第2時では、視覚教材を使用することで、指揮者の表情や動きが演奏の違いにつながっていることを視覚的にとらえさせたい。3人の指揮者による演奏を「速度」「強弱」「フレーズ」の3つの観点で聴き比べることで、それぞれの演奏の違いを感じとらせたい。第3時では、「語りあおう」の歌詞の内容を味わい、その歌詞から曲に対するイメージを膨らませていく。主旋律を追うことで、弱起であることや、反復・変化の特徴に気付かせていきたい。楽譜には強弱記号や速度記号が書かれていないことを確認し、それぞれが速度を工夫したり、強弱を変化させたり、まとまりを意識しながら歌い方を工夫することを確認する。ワークシートに個々の工夫を書くことで、同じような表現を求めている児童同士のグループを作り、次の活動につなげていきたい。第4時では、グループごとに個々の表現の工夫を持ち寄り、話し合いと試行錯誤を通して、表現の工夫をさせていく。4色の付箋に考えを記入し、拡大譜に貼りながら歌うことを通して演奏の仕方を考えさせていきたい。また、AとBのペアグループが1つの教室で活動することで、1曲としての曲想を作っていることを意識させたい。第5時では、AとBのペアグループが1曲に仕上げる活動を取り入れる。ペアグループで振り返ることで、「A-B-A」の構想を確認させたり、曲想の変化を味合わせたりしたい。全体で発表する時にそれぞれのペアグループのよさを聞き取り、思いや意図による表現の違いを味合わせたい。

4 指導内容(学習指導要領の内容と関連)

- A表現 (1)ーイ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
 B鑑賞 (1)ーウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

5 [共通事項]

速度 強弱 フレーズ

6 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	様々な演奏の良さに興味・関心を持って鑑賞したり、歌詞の内容、曲想を生かしたり表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	旋律の反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	互いに聴きあい、旋律の反復・変化を感じ取りながら、歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。	速度・強弱などを手掛かりに、いろいろな演奏を聴き比べ、感じ取ったことを言葉で表すなどして、曲の特徴や演奏の良さを理解して聴いている。
学習	① 「交響曲第5番『運命』第1楽	① 「語り合おう」の旋律の反復・変化	① 表情豊かに「語り合おう」を歌って	①速度・強弱などを手掛かりに、感じ

活動に即した評価規準	<p>章」の全体の曲想やその変化を感じ取り、音楽の良さや美しさを味わって聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② 「語り合おう」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>を聴き取り、強弱やフレーズの歌い方をどのように表現するかについて自分の考えや願い、意図を持っている。</p> <p>② 「語り合おう」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図を持っている。</p>	<p>いる。</p>	<p>たことを言葉で表すなどして、「交響曲第5番『運命』第1楽章」冒頭の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p> <p>②演奏者や指揮者による表現の違いを聴き比べ、それぞれの音楽表現の良さを味わって聴いている。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7 指導と評価の計画（5時間 本時4 / 5時間）

次	時	○主な学習内容・学習活動（共通事項）	△指導上の留意点 ★評価基準 【評価方法】
第一次	第一時	<p>様々な演奏による音楽表現の違いを感じ取り、そのよさを味わって聴く。</p> <p>○ベートーベンについて知る。 ・ベートーベンの生い立ちや作品について知る。</p> <p>○交響曲について知る。 ・形式・形態について理解し、オーケストラの楽器の名前や配置を確認する。 ・オーケストラのスコアを見ながらどんな楽器が使われているのかを確認する。</p> <p>○「交響曲第5番『運命』第1楽章」を鑑賞する。 ・オーケストラの響きを味わって聴く。 ・速度・強弱などを意識して聴く。</p>	<p>〈関一①〉【表情の観察・ワークシート】 △教科書の写真や挿絵を活用し、楽器の形や表現の方法などがわかるようにする。</p> <p>△曲の冒頭を意識させる。</p> <p>★「交響曲第5番『運命』第1楽章」の全体の曲想やその変化を感じ取り、音楽の良さや美しさを味わって聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>★速度・強弱などを手掛かりに、感じ取ったことを言葉で表すなどして、「交響曲第5番『運命』第1楽章」冒頭の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>

			<p>〈鑑一①〉【表情の観察・ワークシート】</p> <p>△様々な演奏家の「運命」の演奏を用意する。</p> <p>△指揮をしながら演奏を聴いてもいい。</p> <p>△オーケストラの楽器の響きに気を付けながら視聴覚教材を活用して、楽器を演奏する人や指揮者の違いによる表現の違いを感じ取って聴く。</p> <p>★演奏者や指揮者による表現の違いを聴き比べ、それぞれの音楽表現のよさを味わって聴いている。</p> <p>〈鑑一②〉【表情の観察・ワークシート】</p>
第二時	<p>○「交響曲第5番『運命』第1楽章」を鑑賞する。</p> <p>・様々な演奏者の演奏を、速度・強弱・に気を付けて聴く。</p> <p>・演奏者や指揮者による表現の違いを感じ取り、学習カード等にまとめる。(速度・強弱)</p>		
第二次	<p>歌詞の内容を味わい、曲想を生かした表現を工夫しながら、思いを生かして歌う。</p>	<p>第三時</p> <p>○「語りあおう」の歌詞から曲に対するイメージを持つ。</p> <p>・詩から感じたことと考えたことを書く。</p> <p>○「語りあおう」の曲の感じをつかみ、主旋律を歌う。</p> <p>・範唱を聴いて曲想を感じ取り、主旋律を歌う。</p> <p>○歌詞の内容、曲想を生かした表現の工夫をする。</p>	<p>△どのような曲か想像させる。</p> <p>△フレーズ感を大切にして、曲の構想を確認しながら歌う。</p> <p>△弱起の曲なので、前奏をよく聴いて歌い出すようにする。</p> <p>〈関一②〉【ワークシート】</p> <p>〈創一①〉【歌っている様子の観察・ワークシート】</p> <p>△「速さ」「強弱」を意識させる。</p> <p>★「語りあおう」の旋律の反復・変化を聴きとり、強弱やフレーズの歌い方をどのように表現するかについて自分の考えや、意図をもっている。</p>
第四時・本時	<p>○グループに分かれて歌詞の内容、曲想を生かした表現の工夫をする。</p> <p>・前時の自分の考えを参考に、曲に表情を付けるための工夫を話し合う。</p> <p>・「速さ」「強弱」を意識する。</p> <p>・4色の付箋に考えを記入し演奏の仕方を考える。</p>		<p>★「語りあおう」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>〈創一②〉【歌っている様子の観察・歌声の聴取】</p>
第五時	<p>○グループごと「語りあおう」の歌い方を振り返る。</p> <p>・AとBのグループで歌い方を工夫し</p>		<p>★「語りあおう」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図を持つ</p>

	<p>1曲を仕上げる。</p> <p>○グループごと「語りあおう」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫した部分を発表する。 ・感想をワークシートに書きこむ。 	<p>ている。</p> <p>〈技一①〉【歌っている様子の観察・歌声の聴取】</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------

8 本時の授業 5時間 本時 4/5時間

(1) 日時 平成30年9月4日(火)

(2) 場所 貢川小学校 6年2組教室 学習室

(3) 本時の目標 歌詞の内容を味わい、思いや意図をもって、曲想を生かした表現を工夫する。

時	主な学習活動	指導上の留意点・評価	準備など
導入 10分	<p>○常時活動1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音をリコーダーで吹く。 <p>○常時活動2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔でワ・ハ・ハ」2部合唱をする。 <p>○前時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「語りあおう」を歌う。 <p>○今日の目標の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの響きを聞きあうように声をかける。 ・口の形を意識するように口形カードを提示する。 ・注意点を拡大譜に書き入れておくことで、お腹の使い方を意識させる。 ・個々の工夫を確認しながら歌えるように、ワークシートを見ながら歌わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和音カード(掲示物) ・歌詞の拡大譜 ・口形カード(掲示物)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>思いが伝わるように歌い方を工夫しよう。</p> </div>			
展開 30分	<p>○グループで思いが伝わるように歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ABパートそれぞれ6人の4グループに分かれる。 ・A1とB1, A2とB2でグループをつくり活動する。 ・リーダーを中心に表現の工夫を話し合う。 ・「音楽の感じを表す言葉」「速さ」「強弱」などの工夫を4色付箋に工夫を書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートを参考に思いや意図が似通っている者同士でグルーピングをしておく。 ・ペアグループで曲に仕上げることを伝えておく。 ・Aパート2組Bパート2組それぞれ6人の4グループに分かれ話し合わせる。 ・学習室と教室に分かれ、それぞれのクラスにABグループを1組ずつ配 	<ul style="list-style-type: none"> ・机 ・拡大譜 ・4色付箋 ・鍵盤ハーモニカ

	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋を貼り変えながら工夫を深める。 ・歌いながら、表現を確かめ、工夫を考える。 <p>○ペアグループで聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ、Bグループの順に発表する。 ・拡大譜を見ながら工夫に注意して聴けるようにする。 ・聴いた感想を伝え合う。 	<p>置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアグループで活動することでメロディーの混在を防ぐ。 ・AとBをつなげると1つの曲になることを意識させる。 ・2つの教室を回り、「音楽の感じを表す言葉」しか書けていないグループにはそれぞれの工夫を、工夫しか書けていないグループには「音楽の感じを表す言葉」が書けるよう支援する。 ・4色の付箋を用いることで色による可視化を図る。 ・表現の工夫が変更できるように付箋を用いる。 ・全員が話し合いに参加するために、個々のワークシートを活用するよう促す。 ・AグループBグループ互いに聴き終わってから感想を書くように伝える。 <p>〈創一②〉【ワークシート・付箋の記入】</p>	
まとめ 5分	<p>○振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を観点に沿って振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに活動の観点を示すことで表現のよかった点、工夫などを書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

9 本時の評価

音楽表現の創意工夫

十分達成している	概ね達成している	支援を必要とする児童への手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図をもって、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いが表現に結びついていないグループは、一緒に歌って表現の工夫の道筋を示すようにする。

①鑑賞を歌唱表現に生かし、自分の思いや意図を持って歌唱表現の工夫に取り組むための手立てについて。

〈まとめ〉

- 「交響曲第5番『運命』第1楽章」の鑑賞で、3人の指揮者による演奏の違いを聴いたことから、自分たちにしかできない音楽にしたいという思いをもって本時に入ることができた。
- 「速度」「強弱」「フレーズ」の3つ要素に観点を絞って鑑賞活動を行った事で、それぞれの要素の持つ効果に気付くことができた。
- 観点を「速度」「強弱」「フレーズ」の3つの要素に絞って活動を仕組んだことで、児童が知覚した要素を歌唱表現に生かすことができた。
- 児童が知覚した要素を「このような表現にしたい」という感受に結び付けることができた。
- 表現の工夫の前に、どのような曲を作りたいのかという思いを班で共有する活動を充実させる必要があった。思いの共有が十分でなかったため、どのような意図で工夫するか、どの要素でどのような表現にするのかあいまいになった。
- 鑑賞を表現に生かすために、繰り返しのフレーズをどう表現するのかという視点で考えさせることで、より鑑賞と繋げることができたのではないかな。

②場の設定や、教具の工夫は有効であったか。

- 似たような思いを持つ児童でグループを作ったので、個々の思いを表現の工夫に生かすことができた。
- A, B, Aの構成をもつ楽曲なので、A, Bグループでペア活動をしたことで、曲の全体像を意識させることができた。
- A, Bグループのペアグループで2つの教室に分かれて活動したことで、音がまざらず曲の工夫に集中することができた。
- 2つの教室に分かれたことで、指導者の目が行き届かず、十分な支援を行えないことがあった。
- 付箋が4種類あったため、情報量が多くなってしまった。「知覚」と「感受」の2種類にすることで、思いと意図を明確にすることが可能だったのではないかな。
- 「このようにしたい。」というグループのイメージを明確にし、それにあう要素を考えるとという手順を示しておけば、思いに沿った工夫を考えることができたのではないかな。
- 個々の思いをグループの共通のテーマにするためのワークシートの工夫が必要だった。
- リーダーが主になり話し合いを進めていたが、演奏しながら表現の工夫がもっとできるとよかった。
- 録音をするなど、自分達の演奏を客観的に聴くことで、技能習得の機会に繋げることができたのではないかな。
- 言語活動が多くなってしまったので、教師と一緒に歌ってやるなど、支援が必要だった。

